

## 異素材のブロンズ彫刻との組み合わせ

第17回では静岡市清水区の久保田 育長さん（当時34歳）が、入賞した。今回お墓の建立に関して、姉がなくなりどんなお墓を立てたら良いかと、色々考えインターネットでも調べて思ったことは、あたたかみのあるお墓、自分たちを表現できるお墓と考え、立ったままお参りができるようにレンガで高めのベースをつくり、赤い墓石の中央にブロンズでお花を飾り、いつでも花が、満ち溢れているようにしました。



やはり第17回に愛媛県今治市の渡部英昭さんが入賞。ピアノの形の墓標は長女がヤマハのピアノ講師をしていることから、また小生はカメラが好きなため。花壇は年中花を咲かせてやろうと思ってデザインに取り入れました。また、墓石にはブロンズの花の彫刻を取り入れました。墓石はインド産の石でワイン色です。妻が平成19年9月29日に亡くなりました。70歳でした。急なことで誠に残念です。小生一人となり誠に残念でした。私は昭和4年生まれで82歳です。元気ですので毎日ボランティアで体を動かし頑張っています。おかげで元気です。お墓までは、20kmほどありますが、4～5日に1回はお墓に会いに、車で往復しています。



第21回では宮城県仙台市青葉区の長谷川 富美子さんが、ドイツのブロンズ工

芸デザイナーの花と蝶の作品入りお墓で入賞した。父は東京のデザイン学校に私を行かせてくれました。そこでファッションデザインを学びその仕事につけたのは、何より父への最大の感謝です。なので、三姉妹の長女である私の主体性にかけてくれた父に宛て、残された家族の思いと希望をデザインに託しました。アスコットタイがよく似合うお洒落な父は、今きっと天国で自分のやりたいことにみちみちて居ると思います。人生は可能性に富み、生き生きとエネルギーに溢れて思う存分身体を活かして生きられる。そんな生きることということを肯定的に捉えたデザインにしています。

ブロンズの花や蝶はブルーパールというとても美しいブルーの入った悼石にはめました。ブルースカイの中で咲く花と蝶です。悼石は天に向かい広がる形に曲線にしています。青空に向かう花や蝶のように、心の制限を外して自由に喜んで生きられる。そんな世界観を表現しています。

